

Online Appendix 1 IFRS 研究の公表年とジャーナル

公表年	CAR	JAE	JAR	RAST	TAR	合計
1999	0	1	0	0	0	1
2000	0	0	1	0	0	1
2001	0	0	1	0	0	1
2002	0	0	0	0	1	1
2003	0	0	1	0	0	1
2004	0	0	0	0	0	0
2005	0	0	0	0	0	0
2006	0	0	0	0	0	0
2007	0	0	1	1	0	2
2008	1	0	2	0	0	3
2009	0	0	1	0	1	2
2010	0	0	0	1	2	3
2011	0	1	2	1	0	4
2012	0	3	1	1	2	7
2013	4	1	1	0	3	9
2014	0	0	1	0	2	3
2015	0	1	1	2	3	7
2016	1	0	1	0	2	4
2017	2	0	1	1	0	4
2018	0	0	0	0	0	0
2019	3	0	0	2	0	5
合計	11	7	15	9	16	58

(注) Online Appendix 1 は、58 本の IFRS 適用の帰結に関する調査対象論文 (IFRS 研究) をジャーナル別に分類し、公表年を示したものである。ここで、CAR は *Contemporary Accounting Research*, JAE は *Journal of Accounting and Economics*, JAR は *Journal of Accounting Research*, RAST は *Review of Accounting Studies*, TAR は *The Accounting Review* の略称である。

Online Appendix 2 IFRS 適用形態に基づく IFRS 研究の展開

適用形態	財務報告の質		資本市場		契約	
	会計の質	比較可能性	株式市場	債務市場	債務契約	経営者契約
任意適用	Hung and Subramanyam (2007) Barth et al. (2008)		Leuz and Verrecchia (2000) Daske et al. (2013)	Kim et al. (2011)	Kim et al. (2011)	Wu and Zhang (2009)
強制適用	Barth et al. (2012) Landsman et al. (2012) Ahmed et al. (2013) Neel (2017)	Barth et al. (2012) Yip and Young (2012) Cascino and Gassen (2015) Neel (2017)	Daske et al. (2008) Li (2010) Byard et al. (2011) DeFond et al. (2011) Florou and Pope (2012) Christensen et al. (2013) Daske et al. (2013) Neel (2017)	Florou and Kosi (2015)	Ball et al. (2015)	Ozkan et al. (2012) Wu and Zhang (2019)

(注) Online Appendix 2 は、IFRS の適用形態に基づき、主要な IFRS 研究を分類したものである。1 つの論文で複数の IFRS 適用の影響を分析する場合、それぞれの箇所に論文を記載している。また、それぞれの論文の主要な分析目的である IFRS 適用形態に基づき、論文を分類している。

Online Appendix 3 IFRS 研究の分類

Panel A トップ5ジャーナル

年代	財務報告の質		資本市場		契約	
	会計の質	比較可能性	株式市場	債務市場	債務契約	経営者契約
1999～2004	2	0	3	0	0	0
2005～2009	3	0	2	0	1	1
2010～2014	5	4	16	1	1	1
2015～2019	4	5	8	4	2	2
合計	14	9	29	5	4	4

Panel B トップ5以外のジャーナル

年代	財務報告の質		資本市場		契約	
	会計の質	比較可能性	株式市場	債務市場	債務契約	経営者契約
2006～2009	4	0	2	0	0	0
2010～2014	16	2	7	0	0	1
2015～2019	13	0	6	5	1	1
合計	33	2	15	5	1	2

(注) Online Appendix 3は、調査対象論文がどのようなIFRS適用の効果を分析しているのかについて、その論文数を示したものである。Panel Aは、トップ5ジャーナルに掲載された58本の論文を、調査期間を5年ごとに区分して、その論文数を示したものである。調査対象論文が複数のIFRS適用の効果を分析する場合、それぞれの効果で調査対象論文を集計している。そのため、Panel Aで示された論文の合計(65本)は、調査対象論文数58本を上回っている。Panel Bは、*European Accounting Review* (EAR)、そして国際会計の代表的なジャーナルである*International Journal of Accounting* (IJA)と*Journal of International Accounting Research* (JIAR)に掲載された論文を調査対象論文として、そこで掲載された56本の論文がどのようなIFRS適用の効果を分析しているのかについて、トップ5ジャーナルと同様に年代を区分し、その論文数を示したものである。論文の掲載が2006年以降になっているのは、Web of Scienceで2006年以前の論文が見つからなかったためである。また、調査対象論文が複数のIFRS適用の効果を分析する場合、それぞれの効果で調査対象論文を集計するため、Panel Bで示された論文の合計(58本)は、調査対象論文56本を上回っている。